

令和8年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門

政策No	14	政策名	豊かで多様な文化に包まれたまちづくりを進める
所管部	文化芸術事業連携担当	関係部	

2 政策のめざす方向性

文化芸術を通じて、区に住み、働き、学び、訪れる人々の意識や行動の変化を促し、多様性を認め合う価値観が区内外に発信されることで、平和な世界の実現に貢献するため、子どもから若者、子育て世代、高齢者まで、年齢や障害の有無、国籍等にかかわらず、誰もが文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会を充実するとともに、多様な主体間の協働による文化芸術振興や文化芸術振興施策の推進に向けた基盤整備を進めます。

SDGsとの関係



3 成果指標【政策について満足している区民の割合】

指標の推移		計画目標値	達成度※	※評価区分 A：達成（達成度が100%以上） B：相当程度達成（達成度が70%以上100%未満） C：未達成（達成度が70%未満）
現状値	実績			
令和2年度	令和7年度	令和8年度		
26.7%	37.8%	43.3%	C	

これまでの取組と成果
身近な場所を活用したコンサートの実施や、文化芸術等の専門家派遣によるワークショップ、みなと芸術センター整備に向けたプレ事業等に取り組んできました。その結果、区民が文化芸術に触れる機会の創出や、文化芸術振興を支える基盤整備は一定程度進展しました。一方で、参加者の世代の偏りや多様な主体の参画拡大といった点では課題が残っており、今後の取組の充実が求められます。

課題と今後の方向性
※未達成の場合は原因分析を含む
本政策では、文化芸術に触れる機会の創出や基盤整備に取り組んできましたが、より多くの層が参加することや、多様な主体による協働の広がりが求められており、成果指標の達成には至っていません。今後は、若年層を含む幅広い世代への訴求強化や、ネットワークを活かした協働の仕組みづくりを進め、文化芸術が区民生活により浸透する取組を推進していきます。

4 施策の取組状況【施策評価結果】（詳細は別紙「施策評価シート」）

No	施策名	成果指標	施策評価
①	誰もが文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会の充実	1年間に文化芸術を鑑賞した区民の割合	C
		1年間に文化芸術活動をした区民の割合	
②	多様な主体間の協働による文化芸術振興	港区文化芸術ネットワーク会議への年間の実参加団体数	C
		ふれあいアート（区内幼稚園・保育園）、学校音楽等派遣教室（区立小・中学校）への派遣団体数	
③	文化芸術振興施策の推進に向けた基盤整備	みなと芸術センターで鑑賞・参加・創造したい区民の割合	B
		みなと芸術センター整備に向けたプレ事業に参加して満足した区民の割合	

5 予算額・決算額・執行率（単位：千円）			
年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
予算額	210,616	428,036	652,374
流用・補正	△65,777	6,169	-
決算額	142,769	376,883	-
執行率	98.60%	86.80%	-
6 政策を取り巻く社会経済情勢等			
計画期間中の社会経済状況等の変化 ・社会経済状況、人口動向、財政状況、国や東京都等の動向など	令和5年度に策定された文化庁の文化芸術推進基本計画（第2期）では、デジタル技術を活用した文化芸術活動を推進していくなどを重点取組に掲げています。令和7年に策定された都の基本計画「2050東京戦略」では、芸術文化は社会に不可欠な基盤であるという考え方が示されています。		
区民ニーズ等 ・区民意識調査 ・区民から寄せられた意見 など	港区文化芸術実態調査から、区民からは、チケットの区民優待、子ども向け文化体験、多様な区民が参加しやすい環境整備、効果的な情報発信へのニーズが強く、属性に応じたきめ細かな施策展開が求められています。		
7 所管課による評価【一次評価】			
政策の達成状況	身近な場所を活用したコンサートの実施や、学校等への専門家派遣、みなと芸術センター整備に向けたプレ事業などにより、区民が文化芸術に触れる機会の創出や基盤整備は一定程度進展しています。一方で、施策によっては参加者層や参画主体に偏りが見られ、成果指標の一部は計画目標値に達していないことから、政策全体としては未達成にとどまっています。		
達成状況の要因 ・施策の有効性が高かった点 ・施策の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	成果が得られている要因として、区民にとって身近な場所での継続的な事業実施や、施設・学校のニーズを踏まえた専門家派遣、みなと芸術センターの開館を見据えたプレ事業と情報発信により、文化芸術への関心や認知が着実に高まってきたことが挙げられます。一方、取組の意義や内容の周知が十分でない施策もあり、新たな参加者や参画団体の拡大につながりにくい状況が見られました。		
課題と今後の方向性	今後は、これまでの取組を継続しつつ、参加者や参画主体の偏りを解消し、より幅広い世代や多様な主体の参画を促すことが課題です。施策間の連携を強化するとともに、情報発信や周知方法の工夫を進めます。あわせて、みなと芸術センターが文化芸術の中核拠点として協働の取組を広げ、文化芸術が区民生活に一層浸透するよう推進していきます。		
8 港区行政評価委員会による評価【二次評価】			
評価	B：政策目的を相当程度達成		
政策の達成度	・区民満足度は中間目標の上方修正により未達成に見える面はあるものの、満足度の推移に鑑みた場合、評価は「A」に値します。 ・施策「誰もが文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会の充実」及び「多様な主体間の協働による文化芸術振興」は、いずれも成果指標の設定に課題があり、評価結果をもって判断することは適当ではありません。 →以上を踏まえ、評価は「B」とします。		
MINATOビジョン策定に向けた今後の政策の方向性 ・重点的に取り組むべき施策 など	・施策①の成果指標について、文化芸術に触れられる機会は一般的に費用を伴うものですが、広く区民に親しんでもらうという視点に立った場合、無償のイベントにどれだけ人を集め、文化芸術に触れる機会を提供できたかを指標として設定するべきです。 ・区民に文化芸術に触れてもらうことで行動の変化を促していくというねらいは非常に効果的であり、その効果をよりの確に把握できる成果指標を設定する必要があります。		

施策評価シート

政策No	14	政策名	豊かで多様な文化に包まれたまちづくりを進める
施策No	①	施策名	誰もが文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会の充実
目標・期待する成果	子どもから若者、子育て世代、高齢者まで、年齢や障害の有無、国籍等にかかわらず、誰もが多様な手法で時間や場所にとらわれることなく、様々な文化芸術を鑑賞・参加・創造できる環境整備を進めるとともに、国際性豊かな区の特性や多様な文化資源を生かした取組を推進することで、文化芸術を通じた相互理解を促し、共生社会の実現をめざします。		
SDGsのゴールとの関係	  		
施策担当課	国際化・文化芸術担当		関係課

1 成果指標の達成度

成果指標①		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和8年度は見込み）			
		令和2年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1年間に文化芸術を鑑賞した区民の割合		86.7%	75.2%	-	83.7%	83.7%	86.9%
	達成度	当該年度の取組と成果			課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和6年度	b	令和6年度ロビーコンサート事業において、ロビーコンサートを4回、リーブラホールコンサートを1回、まちなかコンサートを1回実施し、計552人を動員することで、誰もが文化芸術を鑑賞、参加及び創造できる機会の創出に取り組みました。			令和7年度からはMINATOまちなかコンサート事業としてレベルアップし、ロビーコンサートに加え、まちなかコンサートやアウトリーチによるコンサートを開催することにより、文化芸術の鑑賞機会を増やします。また、令和7年度に実施する港区文化芸術実態調査にて、成果指標を測ります。		
令和7年度	c	令和7年度MINATOまちなかコンサート事業において、ロビーコンサートを5回、まちなかコンサートを3回、アウトリーチを6回実施し、計1588人を動員することで、誰もが文化芸術を鑑賞、参加及び創造できる機会の創出に取り組みました。			令和8年度は、ロビーコンサートとアウトリーチの実施回数を増やし、さらに東京都主催のARTE TOKYO（東京国際文化芸術祭）と関連したコンサートを実施することにより、区民が文化芸術に親しむ機会の充実を図ります。		
令和8年度	c	令和8年度はロビーコンサートを7回、まちなかコンサートを3回、アウトリーチを12回開催するとともに、東京都主催のARTE TOKYO（東京国際文化芸術祭）と関連したコンサートを実施します。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）
c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

成果指標②		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和８年度は見込み）			
		令和２年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	
1年間に文化芸術活動をした区民の割合		61.8%	42.7%	-	48.2%	48.2%	62.0%
	達成度	当該年度の取組と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和６年度	b	ミナコレ事業では、区内の美術館・博物館等と連携したスタンプラリーを実施し、景品コースの追加や応募手続きの簡素化により、参加者数が増加するなど、文化施設の周遊促進に一定の効果が見られました。			令和７年度は、参加者全員特典の配布やSNSを活用した広報等を行うことで、多様な世代が文化資源に接する機会を創出します。また、令和７年度に実施する港区文化芸術実態調査にて、成果指標を測ります。		
令和７年度	c	ミナコレ事業では、区内の美術館・博物館等と連携したスタンプラリーを実施し、大使館訪問や景品応募などの参加者特典を充実させたことで、参加意欲が高まり、新規来館者の増加や文化施設の認知向上などにつながりました。			令和８年度は、協力館との広報面や事業運営上の連携を図り、子ども向けワークショップを行うことで、多様な世代が継続的に文化資源に接する機会を提供します。		
令和８年度	c	令和８年度も区内の豊かな文化資源に身近に接する機会を創出するために、ミナコレ事業において区内の美術館及び博物館と連携したスタンプラリーを実施します。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）

c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

2 施策評価

評価	C：計画目標を達成できない
施策の達成状況	区民にとって身近な場所や区内の新たな一面を感じることができる場所でのコンサートなどを今後も継続的に実施することにより、成果指標①は目標値に近い水準まで達成見込みです。成果指標②については、未達成の見込みのため、評価をCとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	成果指標①については、統一感のあるチラシ等を活用し継続的に周知を行ったことにより事業の認知度が向上し、内容の質が維持されたことで、回数を重ねるごとにリピーターがついたことが要因と考えられます。成果指標②については、参加者の世代に一定の偏りが見られ、若年層の参加が少なかったことが全体として未達成となった要因であると捉えています。
MINATOビジョン策定に向けた課題と今後の方向性	1年を通して、誰もが気軽に文化芸術を享受できるよう、今後も継続的に質の高い事業を実施します。

A：計画目標を達成できる（成果指標（平均）の達成度100%以上）

B：計画目標を相当程度達成できる（成果指標（平均）の達成度70%以上100%未満）

C：計画目標を達成できない（成果指標（平均）の達成度70%未満）

施策評価シート

政策No	14	政策名	豊かで多様な文化に包まれたまちづくりを進める
施策No	②	施策名	多様な主体間の協働による文化芸術振興
目標・期待する成果	芸術ジャンルや社会領域を超えた多様な主体間の交流・連携が進むことで、心豊かで潤いのある生活を送る上で極めて重要な文化芸術が、多様な手法で安全かつ継続的に区民に提供されるとともに、文化芸術のみならず、様々な社会領域が抱える課題解決につなげます。		
SDGsのゴールとの関係	 		
施策担当課	国際化・文化芸術担当		関係課

1 成果指標の達成度

成果指標①		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和８年度は見込み）			
		令和２年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	
港区文化芸術ネットワーク会議への年間の 実参加団体数		40団体	39団体	52団体	13団体	15団体	55団体
	達成度	当該年度の取組と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和６年度	a	当該年度は、区・財団に加え、東京都及びアーツカウンシル東京との四者共催により実施しました。この体制により、集客面ではこれまでとは異なる層へのアプローチが可能となり、当初の想定を上回る団体の参加につながりました。			四者共催は今回限りの特例的なもので、今後の継続は見込まれていません。共催により得られた知見を活かし、参加実績のある団体への早期の声かけや広報手段の多様化により、一定の参加団体数の確保を図ります。		
令和７年度	c	港区文化芸術ネットワーク会議シンポジウム「文化・芸術×共生社会—だれもが文化・芸術にアクセスしやすい環境づくり」を開催し、文化団体や関係機関等が参加し、文化芸術と共生社会をテーマに意見交換や情報共有を行いました。こうした取組を通じて、多様な主体が文化芸術を切り口に連携する意義を共有し、今後の協働に向けた基盤づくりにつなげました。			港区文化芸術ネットワーク会議を通じて意見交換や情報共有を行ったものの、参加団体数は目標に届きませんでした。ネットワーク会議の取組の意義や内容を分かりやすく発信するとともに、周知をさらに強化し新たな団体の参画促進を図ります。		
令和８年度	c	港区文化芸術ネットワーク会議を通じて、多様な文化芸術団体や関係機関が参画する機会を設け、情報共有や意見交換を行います。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）

c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

成果指標②		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和８年度は見込み）			
		令和２年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	
ふれあいアート（区内幼稚園・保育園）、学校音楽等派遣教室（区立小・中学校）への派遣団体数		-	86団体 （内訳） 幼保72園 小中14校	91団体 （内訳） 幼保74園 小中17校	103団体 （内訳） 幼保87園 小中16校	103団体 （内訳） 幼保87園 小中16校	89団体
	達成度	当該年度の取組と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和６年度	a	最終計画目標値を上回る実績をあげることができました。 また、毎年度継続して参加する学校も一定数見られるようになり、リピーターの定着が進んでいます。			毎年度継続して参加する園・学校がある一方で、スケジュールに余裕がないなどの理由で参加を見送るケースも一定数見られます。今後は、告知の時期や内容の見直しに加え、参加しやすい日程調整など、参加促進に向けた工夫を進めていきます。		
令和７年度	a	昨年度を上回る成果を達成することができました。加えて、毎年度継続して参加する学校も確認されており、リピーターの定着が進展しています。			昨年度を大きく上回る実施状況となっている一方で、参加を見送っている園や学校も存在しています。今後は、その要因を分析・把握した上で、より参加しやすい柔軟な運営方法の検討及び推進を図ります。		
令和８年度	a	各施設に文化芸術等の専門家を派遣し、子どもたちが間近で見て、触れて、感動を得ることができるワークショップを実施します。あわせて、各施設の希望を取り入れながら、柔軟な運営に努めます。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）

c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

2 施策評価

評価	C：計画目標値を達成できない
施策の達成状況	文化芸術等の専門家派遣によるワークショップの実施に積極的に取り組んだ結果、子どもたちが身近に文化芸術に触れる機会の創出という目標は概ね達成されました。 施策の評価については、成果指標②は計画目標値を達成する見込みである一方、成果指標①は目標に達していないことから、総合的にC評価としました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	成果指標①については、参加の意義やメリットの周知が十分でなかったことから、団体の参画が広がらず、予定していた成果を得るまでには至っていません。 成果評価②については、各施設の希望を踏まえた内容で専門家を派遣し、子どもたちが身近に文化芸術に触れる機会を創出するなど、一定の成果を得ることができました。
MINATOビジョン策定に向けた課題と今後の方向性	芸術ジャンルや社会領域の枠を超えた多様な主体との連携を一層推進し、区民が身近に文化芸術に触れられる機会の創出を図ります。

A：計画目標を達成できる（成果指標（平均）の達成度100%以上）

B：計画目標を相当程度達成できる（成果指標（平均）の達成度70%以上100%未満）

C：計画目標を達成できない（成果指標（平均）の達成度70%未満）

施策評価シート

政策No	14	政策名	豊かで多様な文化に包まれたまちづくりを進める
施策No	③	施策名	文化芸術振興施策の推進に向けた基盤整備
目標・期待する成果	区の文化芸術の中核拠点としてみなと芸術センターを整備し、文化芸術を通じた交流や相互理解をめざします。また、人々の自由な表現活動を通じて多様性を認め合う価値観を醸成するとともに、区民の意識や行動の変化を促すことで、共生社会の実現につなげます。		
SDGsのゴールとの関係	   		
施策担当課	国際化・文化芸術担当		関係課

1 成果指標の達成度

成果指標①		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和8年度は見込み）			
		令和2年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
みなと芸術センターで鑑賞・参加・創造したい区民の割合		-	-	-	72.9%	72.9%	77%
	達成度	当該年度の取組と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和6年度	-	令和9年度の開館に向け、区の文化芸術の中核拠点となるみなと芸術センターの整備を進め、区民等が文化芸術に関心を持ち参加できる事業としてプレ事業を実施しました。			みなと芸術センターのホームページを開設し、広報活動を本格化させます。 また、愛称の募集を通じて区民に参画してもらうなど、身近で親しみのある施設になるよう周知に取り組みます。		
令和7年度	a	みなと芸術センターの指定管理者予定者である、みなと文化パートナーズと連携し、プレ事業や広報活動に取り組みました。施設の専用HP・SNSを開設し、施設の情報やプレ事業の周知・実施報告などを発信しました。			今後も区及びみなと芸術センターのHP、SNS等による継続的な情報発信に取り組みます。また、芝地区総合支所協働推進課が発行する地域情報誌で継続的に施設の情報を発信するなど、他部署と連携した取組も行います。		
令和8年度	b	令和7年度は応募の中から選ばれた愛称「m～m（むーむ）」を公表し、愛称を踏まえたロゴマークを令和8年度に発表します。理解と関心を深めていただけるよう、引き続きプレ事業や情報発信に取り組みます。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）
c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

成果指標②		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和８年度は見込み）			
		令和２年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	
みなと芸術センター整備に向けたプレ事業に参加して満足した区民の割合		-	78.2%	80.0%	84.3%	88.0%	90%
	達成度	当該年度を取組と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和６年度	a	開館に向けた気運を醸成するため、みなと芸術センターの基本理念や重点的な取組等の趣旨を踏まえたシンポジウム、ワークショップ、また、旧三田図書館を活用した居場所づくりを開催しました。			港区らしさや開館後のブランディング・オープニング事業に繋がるとともに、文化芸術を身近に感じ、区民に親しまれるプレ事業を企画・実施します。 11月には開館２年前イベントを実施します。		
令和７年度	a	１年を通して、多様なプレ事業を実施しました。開館２年前のイベントでは、区長とゲストによるトークに加え、音楽とドローイングのコラボレーション・パフォーマンス、VR体験、レゴのワークショップなど幅広いプログラムを展開しました。			プレ事業は、みなと芸術センターの開館を周知するとともに、施設の理念や取組の方向性を示すことを目的としていることから、開館への期待感を高め、イベントを楽しんでもらうよう工夫します。		
令和８年度	b	みなと芸術センターの取組の浸透を図るため、前年に引き続き多様なプログラムを実施します。11月には開館１年前イベントを開催し、開館への期待感を高める機会とします。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）

c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

2 施策評価

評価	B：計画目標を相当程度達成できる
施策の達成状況	情報発信や気運醸成のためのプレ事業に積極的に取り組み、成果指標①は目標値を概ね達成できる見込みです。 成果指標②は、計画目標値の達成には至っていないものの、令和6年度と比較して令和7年度は数値が向上しました。これに加え、成果指標①の結果も踏まえ、計画目標値を相当程度達成できることから、評価をBとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	成果指標①について、開館2年前プロローグ・イベントは、延べ約1,200人が参加するなど、多くの方にみなと芸術センターに興味、関心を持っていただいたのは大きな成果でした。 成果指標②については、満足度が84.3%と高い評価を受けていますが、みなと芸術センターの理念や取組の方向性を示し、文化芸術を親しみ、わかりやすく伝える部分においては、より工夫する必要があります。
MINATOビジョン策定に向けた課題と今後の方向性	認知度や開館への期待感の向上には一定の時間を要するため、今後も情報発信やプレ事業を継続的に実施し、地道かつ着実な取組を進めていきます。

A：計画目標を達成できる（成果指標（平均）の達成度100%以上）

B：計画目標を相当程度達成できる（成果指標（平均）の達成度70%以上100%未満）

C：計画目標を達成できない（成果指標（平均）の達成度70%未満）